





人増強キャンペーンが頓挫することを予想した RI スタッフが言い訳的な処置のために持ち出しました

したものだと思いました。世界でロータリーの女性会員は 20%です。日本では 10%弱ですが、各地区で一番古いクラブは女性を拒否します。何故かは察しますが、これはいけないことだと思います。しかし現実はハウスワイフは職業分類できません。改めて何故 RI はハウスワイフを入れたのでしょうか?

富田幹事 ロータリアンの数を増やすためだと思います。

藤川 PG その通りです。RI は昔資格ある仕事についていた人が、結婚を機に家庭に入り、復職は不可能になったけれどロータリーには戻れる道を開くためとしています。しかし本音は人頭分担金が欲しいという事だと思います。昨年の規定審議会で職業分類に拘らないという事になりましたからロータリーの会員資格の中にハウスワイフが入ってもいいという事になります。来年最新版の手続要覧日本語版が発行されます。皆様にお配りするそうですから黄色の紙のページが最新規定集になっていますので是非一度目を通してください。さて、昨年の規定審議会で採択されたものの中で重要なものを二つあげて下さいと言われたら何を上げましょうか? そうです、例会は毎週だったものが月 2 回やればいいということになりました。これは定款ではなく細則ですから変更は自由です。会津若松南は 2 回にしたそうです。それで会員が 7 名辞めたそうです。RI のスタッフはハードルを下げれば会員は増えるという発想ですが、下げれば下げるほどブランドが下がることに気づかないので。この 10 年で会員減少ワースト 3 というのは米国、英国、日本です。ただ先進国でドイツだけが会員を伸ばしています。これはドイツは 1 業種 1 会員制を堅持しているからです。ブランドが下がっていないのです。1 番目の質問の答えは職業分類を持っていないハウスワイフでも今はロータリアンになれるです。

②職業奉仕とは具体的に簡潔に言うとどういうことですか?

藤川 PG 上で述べたようなロータリーの状況下で私たちはどうしたらいいか、それは原点に帰ることです。ロータリーの原点とは何でしょうか? そうです、職業奉仕です。では職業奉仕とは何でしょうか。簡潔に地区の職業奉仕委員長富樫さんにお聞きしましょう。

富樫地区委員長 職業を通して奉仕することです。

藤川 PG 富樫さんの場合は具体的にどう言うことになる?

富樫 先日例会で自社の経営理念、経営方針を話し、情報交換しながらお互いに切磋琢磨したいという事を述べさせていただきました。

藤川 PG 同業者がいると思いますが、富樫さんの会社でこれは他とは違うという点はありますか?

富樫 弊社では IMSS という個人情報保護認証を取得し、安心安全のサービスを提供しています。

藤川 PG 有難うございました。この問題を深めるためにはロータリーの歴史を見てみる必要があります。1905 年にポール・ハリスが提唱してロータリークラブが誕生した事はご存じのとおりですが、ポール・ハリスがシカゴクラブの会長になったのは 3 代目です。翌年も再任されましたが途中辞任に追い込まれる事態になりました。それは互恵と親睦だけで十分とする人々と社会奉仕を目指す人々との対立があったからです。ポール・ハリスはその後ロータリーの拡大に全力を尽します。1910 年全米 12 のクラブの連合会会長に就任します。カナダ、英國にもクラブが誕生し 2 年後には国際ロータリー (RI) に発展解消します。この頃には奉仕という概念が息づいてきました。そして 1915 年の国際大会で職業奉仕の原点と言われる「道徳律」が採択されました。11 条からなる道徳律の 3 条には「私は実業人であり、成功したいという野心を抱いていることを認める。しかし、自分は道徳を重んじる人間であり、最高の正義と道徳に基づかない成功は、まったく望まないことを自覚する。」そして 6 年後の 1921 年、エディンバラ国際大会でシェルドンの職業奉仕論が紹介されました。職業は利益を得るための手段だけではなく、それを以って社会に貢献、奉仕するために存在するものである。そしてその奉仕とは、継続的な利益を得るために人間関係の基本的法則である。それゆえ職業奉仕とはリピーターを得るための科学的かつ道徳的な経営法である。1927 年ベルギーのオステンドで開催された国際大会で職業奉仕という呼称が正式に与えられ、職業奉仕はロータリアンがそれぞれの職業を通じて、他の人々に奉仕しつつ高い道徳的水準を保つことを奨励すると宣言されました。これによってシェルドンの理念が正式にロータリーに受け入れられました。簡潔に言うと我々職業人の目標は、自らの事業をいかに継続的に発展させる事ができるかということです。自らの利益を最優先するのではなく、自分の職業を以って地域の人々に役に立つという信念なのです。利潤追求の手段である職業と無償の奉仕を調和させること、これがロータリーの職業奉仕論と言ってもいいと思います。

シェルドンと並んで、ハーバート・テラーがいます。「四つのテスト」の生みの親です。これは、破綻かけた企業を立て直す為の経営方針としてテラー自ら作り上げたものです。道徳律、大連宣言、アーサー・シェルドン、ハーバート・テラー、これが職業奉仕の根幹であろうと私は思っています。

(会報第 2795 回号につづく)